

石井智美

冬の寝支度

灰暗い穴の奥

しばらくは何の姿も見せてはくれない
やがて不確かな底がせり上がり
鬱陶しいケムのなか 時折灯りをかすめ
艶めかしい背を連ねてみせる
そんな姿に気をとられていると
もう、際に頭を出し 瞬時にひしゃげ
遠慮なく床に広がってみせた
そして今夜もそれを拭う